

令和5年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 主催者賞受賞

50年後も子供達が住みたいと思う 地域をめざして

鹿児島県龍郷町 一般社団法人M・MONO秋名（いもーれあきな）

背景

奄美大島北部の龍郷町にある秋名地区（秋名・幾里2集落の総称）、伝統と文化色豊かなこの地域は、大島紬の伝統柄「秋名バラ柄」発祥の地であり、「秋名のアラセツ行事」が行われるなど、かつては大島北部有数の地域として、1500名超の人が暮らしていた。しかし、紬産業衰退と共に仕事を求めて人は秋名を離れ、平成28年度に限界集落目前（人口350名）、秋名小学校は児童数8名まで減少。「荒波地区（過疎が進行する秋名近隣5集落の総称）」の要衝として、秋名の活性化を促したい龍郷町は、平成28年度に地域おこし協力隊（現・当法人代表）を採用。「荒波地区に人の流れを生み出すプロジェクトデザイン」をミッ

ションに動き始めた。

活動内容

住民と協力隊が話し合いを重ね、地域主導による交流人口獲得に向けて秋名のアラセツ行事を活用した体験ツアーの開催や、町おこし先進地への視察など、経験とノウハウの習得を進める。その結果、2年間の協議を経て、事業活動による持続的な体制づくりを目指し、「50年後も子供達が住みたいと思う地域であってほしい」を合言葉に秋名の有志



大島紬秋名バラ柄のデザインを基調とした装飾



地元のお母さんたちが日替わりで厨房を担当



13名で平成30年11月にE'more 秋名を発足。

龍郷町は、これらの活動との連携を期待し、奄美群島振興交付金事業を活用、秋名に飲食宿泊交流施設「荒波のやどり」を竣工（令和2年3月）。事業構想の段階からE'more秋名を中心に議論し、宿泊のほか、同施設内に「あらば食堂」をオープン（令和2年6月）。当初、島外顧客を想定していたが、コロナ禍で断念。SNSやクラウドファンディング、地元紙など島民向けに発信した結果、「旬の食材を使った地元の方が作る懐かしい島料理」が好評となり、「島民がわざわざ秋名まで島料理を食べに来ない」という一般通念を覆し、島内ニーズを知るきっかけとなる。

その後もコロナ禍が続く中、地域資源に着目し、島の家庭で無くなりつつある奄美の正月料理「三献（さんごん）」を正月期間特別メニューとして提供、予約で満席となるヒット企画に。この経験が、「あらば食堂」が食を通して、失われつつある懐かしい島の風習や資源を学び、伝え続けていく使命と期待があることを自覚するきっかけとなった。

これらの取り組み



旬の食材をその日のお母さんの味付けで調理

が島外顧客の呼水となり、30年以上飲食店がなく、住民以外に訪れる人も少なかった秋名で生まれたあらば食堂が様々な媒体で取り上げられ、著名人が訪れるなど、働く人たちにとって誇りになりつつある。このように、あらば食堂が広告塔となり、荒波のやどりが「奄美の暮らしがやどる」宿泊拠点として、荒波地区に人の流れを生み出しながら、次世代へと暮らしをつなげる活動を進める。

さらには、関係人口拡大を狙った「実践型インターンシップ」を令和2年度に導入。島外学生を呼び込み、地域住民と関わりながら、住み込みで新規プロジェクトの立ち上げを行う活動のほか、地域事業者にインターンを導入するコーディネート業務も行い、奄美でも少ない20代前後の世代との関係人口づくりを進めている。

このように、暮らしぶりの学びと発信・交流人口獲得・関係人口拡大を組み合わせることで、地域イメージを高めながら地域内外の強い関わり合いを増やし、地域と暮らしぶりの次世代への継承を進める。

成果サマリー

◆ 宿泊事業

秋名地区で空き家をリフォームした一棟貸宿2棟の他、荒波のやどりを本館として運営。



町営保育所跡地を活用し集落景観を合わせた外観

清掃業務で地域住民5名雇用。宿泊客に地域商店の利用を促し、地域住民との触れ合いを創出。

【延べ宿泊者数】H30年度…90名、R元年度…688名、R2年度…334名、R3年度…775名、R4年度…1332名

◆ 飲食事業

あらば食堂で地元主婦5名雇用し、曜日担当制で旬の地場産食材を中心に各家庭の調理法で島料理を提供。若手主婦を調理補助役で2名、地元高校生を2名、島料理を学ぶことを望む主婦を他地域から1名雇用。厨房で先

輩世代から食と暮らしぶりを学び、給仕の際に食材や風習などお客様へ地域の暮らしぶりを伝える。

【来店者数】R2年度：4138人、R3年度：5149人、R4年度：5925人

※来店者数（リピーター含む）の推計値（売上÷平均客単価）

◆体験プログラム事業

地域語り部から史跡や伝統を聞き取り、「集落歩き」を体験プログラム化。本活動をきっかけに国交省がコロナ禍の非接触型観光検証事業としてオーディオガイドアプリ「On The Trip」の実証実験を秋名で実施。集



アクティビティとして島の歴史と暮らしぶりを体感

落歩き利用のみならず、地域資源継承のツールとなる。

【参加者数】R元年度：26人、R2年度：19人、R3年度：23人、R4年度：50人

◆生活研究グループ

食堂スタッフのほか、秋名の30代主婦6名が加わり、先輩世代から島料理の調理法や風習を学ぶ継承活動として定期的に活動。地元中学校へ郷土料理を教える出前授業も実施。

【会員数】R2年度：8名、R3年度：8名、R4年度：9名

◆関係人口創出事業

インターンの他、学生との協働プロジェクト



料理を通して地域の暮らしぶりを学ぶグループ活動

トなど、積極的に学生や大学と連携実施。内、1名が秋名に移住。

【交流学生数】（ゼミ合宿等の短期受入除く）R元年度：6名、R2年度：0名、R3年度：10名（6名）、R4年度：7名（2名）※（内は、インターン参加者数）

◆雇用状況

平均年齢：55・9歳、最高齢：80歳、最年少：16歳、男女比：2対8

【従業員数】H30年度：1名、R元年度：1名、R2年度：10名、R3年度：12名、R4年度：16名



若年層との協働を通じた濃い関係人口の構築